

男の隠れ家 別冊

2026年1月吉日

クロード・モネの風景(仮)

(2026年2月26日発売)

【巻頭特集】展覧会「モネ没後100年 クロード・モネ—風景への問いかけ」

取材◎賀川恭子様(アーティゾン美術館学芸員)

アーティゾン美術館にて開催される展覧会「モネ没後100年 クロード・モネ—風景への問いかけ」の魅力・見どころを紹介します。

代表作をビジュアルとともに解説し、読者が“どこを見れば展覧会をより楽しめるか”を事前に把握できる導入章とします。

【大特集】クロード・モネの革新

代表作とともに、モネ人生を丁寧に辿ります。間にコラムを挟み、モネが生きた時代や、モネによる影響を紹介。

第一章:光に憧れた少年(1840~1870)

少年期~若き画家としてのモネが、いかに光の表現に魅了されていったかを描きます。

第二章:印象派展へ(1874~1886)

印象派展の誕生、《印象・日の出》が生まれた背景、仲間たちとの協働と葛藤を紹介。

第三章:連作への挑戦(1890~1926)

《積みわら》《ルーアン大聖堂》《ポプラ並木》など、光と時間の連続性を追った連作の魅力を紹介。

執念に近い観察眼と技法の進化を見せてことで、モネの芸術観が一段と深まり、独自の領域へ踏み込んでいく過程を示します。

第四章:《睡蓮》と晩年(1914~1926)

ジヴェルニーの庭を自ら造り上げ、

視力の衰えと闘いながら《睡蓮》の大装飾画へ向かった晩年のモネに迫ります。

寄稿◎モネ、色彩の謎(三木学)

インタビュー◎モネという現象(山田五郎様など西洋美術に造詣の深い方)

印象派の書籍の出版のほか、自身のYouTubeチャンネルでもモネを中心に印象派の魅力を語る山田五郎氏。

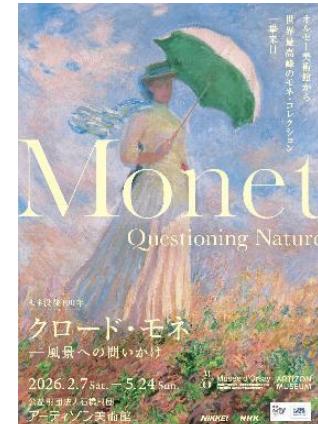
専門的な知識をほどきながら、独自の視点でのモネの楽しみ方を語っていただく。

【特集2】モネと日本

寄稿◎モネとジャポニスム(例:平松礼二)

モネが浮世絵に影響を受けていたこと、

松方幸次郎による作品収集をはじめ日本との深い関わりを紹介。



【コラム】

モネのそれから(ゲルハルトリヒター・福田美蘭などの紹介)／日本でみるモネ(美術館紹介)ほか。

※特集内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

スペース	掲載料金 (税抜)	サイズ (天地mm×左右mm)
表4	1,800,000	235×200
表2見開き	2,500,000	285×420
表3	1,400,000	285×210
目次対向	1,300,000	285×210
4C1P	1,100,000	285×210

■発売日	:2026年2月26日(木)
■発行形態	:平綴じ／右開き
■判型	:112Pフルカラー・A4変型
■定価	:1200円(予価)
■発行発売	:株式会社三栄
■オーダー締切	:2026年2月5日(木)
■校了日	:2026年2月12日(木)

【お問合せ】株式会社三栄 第二営業企画局 Mail : koukoku@san-ei-corp.co.jp

～この企画に関するより詳しい内容・不明点は各担当者にご連絡下さい。～